

平成24年度事業報告書

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

財団法人日本吟剣詩舞振興会

平成24年度事業報告書

事業の概況

1. 一般概要

平成24年度は、当会が創立45周年を迎えたところから、毎秋恒例の武道館大会こと、第44回全国吟剣詩舞道大会を財団創立45周年記念大会として開催すると共に同大会式典で、功労者の表彰等を行った。

事業としては、吟剣詩舞の発表大会並びに各種コンクールの開催といった財団恒例の主要行事のほか、衛星回線利用によるテレビ番組「吟剣詩舞の世界」をレジャーチャンネルより全国放送したのをはじめ、機関誌「月刊・吟剣詩舞」の刊行並びに一般吟詠指導者を対象にした夏季吟道大学、剣詩舞指導者を対象にした剣詩舞道大学及び少壮吟士を対象にした少壮吟士夏季吟詠特別研修会などを実施した。これらの事業の実施にあたっては、主だった理事からなる常任理事会において実施計画を策定して、各々の事業を遂行した。

事業は、平成24年度全国名流吟剣詩舞道大会（略称・名流大会）を皮切りに、夏季吟道大学、少壮吟士夏季吟詠特別研修会、全国吟詠コンクール、全国剣詩舞コンクール、財団創立45周年記念・第44回全国吟剣詩舞道大会（略称・武道館大会）、剣詩舞道大学、第41回全国少壮吟詠家審査コンクールなどの各種事業を実施するとともに、協力援助事業として、第36回全国高等学校総合文化祭・富山県大会（全国高総文祭とやま2012の「吟詠剣詩舞部門大会」）に対する協力援助を行なうなど積極的に協力し、それぞれ盛況のうちに大きな成果をあげることができた。

主要行事の中で、11月11日（日曜日）、日本武道館で開催した財団創立45周年記念・第27回国民文化祭・とくしま2012協賛事業・高松宮妃癌研究基金奉賛・第44回全国吟剣詩舞道大会は、財団の吟詠専門委員会を拡大組織化した「45周年武道館大会準備委員会」が中心となり準備を進め、財団創立45周年記念企画構成番組、『来し方 行く末 明るき光』—財団創立四十五周年に寄せて—を纏め上げた。番組は、財団の過去・現在・未来を見晴るかし、更なる「吟剣詩舞道」の可能性を探ると共に、吟剣詩舞の、日本の将来を若人に託してみようという企画構成番組を披露し、好評を博すことができた。

また、5月5日（土曜日・こどもの日）、大分県大分市の「いいちこグランシアタ」で開催した秋篠宮妃総裁・恩賜財団母子愛育会奉賛・平成24年度全国名流吟剣詩舞道大会は、子供の日に因んで、第三部では、大分県の少年少女による企

画構成番組、山紫水明『豊の子ら』が、第四部では、開催地、大分県に因んだ特別企画構成番組『豊穰なる郷土』一豊の国の風物詩一を披露し、地元吟詠ファンたちの喝采を受けることができた。

このように、武道館大会、名流大会とも、それぞれの大会の特長を活かした、わが国の伝統芸術の祭典にふさわしい大会となった。

これら各種事業のうち、吟詠、剣詩舞、少壮吟詠家審査の各全国コンクール並びに夏季吟道大学、剣詩舞道大学、少壮吟士夏季吟詠特別研修会の開催事業は、日本財団（公益財団法人日本財団）の助成対象事業として助成金の交付を受けて実施されるとともに、衛星回線利用によるテレビ番組「吟剣詩舞の世界」（レジャーチャンネル）の放送事業は、「吟剣詩舞普及事業基金」の運用事業（普及事業）の一環として実施された。

併せて、「吟剣詩舞普及事業基金」の運用事業である広報活動事業については、吟剣詩舞の広報のための「吟剣詩舞ホームページ」の運用維持等を行なった。

このような各種事業が遂行される間、財団の協力援助事業として恒例の第36回全国高等学校総合文化祭・富山県大会（全国高総文祭とやま2012）「吟詠剣詩舞部門大会」が、8月12日（日）、北アルプス文化センター（富山県中新川郡上市町）で開催され、同大会は、地元、富山県吟剣詩舞道総連盟の協力支援のもと、盛況のうちに無事終了した。

ほかに、会員の要望に応えるため、既刊の吟剣詩舞道漢詩集の頒布並びに、平成25年度『吟剣詩舞道吟詠集』の製作頒布を行なうとともに、財団指定『吟剣詩舞道伴奏集』（続編伴奏テープ含む）の製作監修を引き続き行なった。

また、急務とされる青少年層への吟剣詩舞の普及振興を目的とする協力援助並びに奨励のための表彰等を行なう財源を確保するための青少年吟剣詩舞道育成基金（略称・青少年育成基金）の募金を行ない、平成24年度の寄付金は、30件、4,295,000円（累計は396件、81,143,628円）を受入れた。

本年度の青少年育成基金の運用事業に関しては、全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門に対する協力援助並びに青少年対象の4大会への助成金交付及び青少年表彰事業として全国吟詠及び剣詩舞コンクールの幼年、少年、青年の部上位入賞者に副賞（奨励金）の授与等を行なった。

以上のような事業活動を通じて、当財団のモットーとする礼節の大切さを説き、青少年の善導を推し進め、日本の伝統芸術である吟詠、剣舞及び詩舞の普及向上を図り、日本文化の高揚に大いに寄与することができた。

2. 本年度実施した事業

(1) 一般事業

① 組織化促進事業

全国7地区連絡協議会の運営がそれぞれの書記局において行われるとともに、財団において全国地区連絡協議会代表者会議を開催した。

イ. 各地区連絡協議会の運営

◎各地区連絡協議会執行部会議等の開催

◎地区内の財団公認各吟剣詩舞道総連盟の組織運営への協力

◎地区内会員の掌握と会員間諸問題の調整

◎平成24年度の全国吟詠コンクール、全国剣詩舞コンクール及び全国少壮吟詠家審査コンクール地区大会の主催並びに財団の全国決勝及び決選大会の運営主管

◎夏季吟道大学、剣詩舞道大学の地区内参加希望者の推薦並びに全国名流吟剣詩舞道大会及び全国吟剣詩舞道大会など財団行事への協力

ロ. 全国地区連絡協議会代表者会議の開催

◎平成24年度第1回地区連絡協議会代表者会議

平成24年度事業実施等に関する連絡会議

日 時 平成24年6月9日(土) 15:30～16:40

場 所 笹川記念会館 4階第5会議室

出席者 各地区議長、幹事長、書記長など29名

◎平成24年度第2回地区連絡協議会代表者会議

平成24年度事業計画等に関する連絡会議

日 時 平成25年3月9日(土) 15:00～16:30

場 所 笹川記念会館 4階第5会議室

出席者 各地区議長、幹事長、書記長など29名

② 協力援助事業

優秀団体の行う行事に対する協力及び援助を行った。

イ. 傘下団体の行う行事に対する協力援助

団体の行う吟剣詩舞に関する行事に対し、後援名義の貸与等を行うなど協力した。

平成24年度後援大会等承認数75件(前年度68件)

ロ. 全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門に対する協力援助

第36回全国高等学校総合文化祭（全国高総文祭とやま2012）吟詠剣詩舞部門大会の協賛を行うとともに、同吟詠剣詩舞部門大会参加校生徒並びに引率者に対する旅費、宿泊費の援助を行った。

日時 8月12日（日） 9:30～17:40

場所 北アルプス文化センター（富山県中新川郡上市町）

出演者 116校、287名（昨年度、福島県89校、212名）

負担金 1,999,989円

ハ. 青少年育成推進のための協力援助

◎青少年大会開催に対する協力援助

青少年育成基金の運用事業の一環として、青少年対象の大会等を開催する財団公認都道府県吟剣詩舞道総連盟（略称「公認総連盟」と略称）に対し協力援助金の交付等を行った。

第23回岡山県吟剣詩舞青少年大会交付金 100,000円

第33回栃木県高等学校吟詠剣詩舞発表大会交付金 100,000円

第54回愛媛県青少年吟剣詩舞道大会交付金 100,000円

同上愛媛県大会のコンクール賞状及びトロフィー代 24,700円

第16回神奈川県幼少青年吟剣詩舞発表大会交付金 100,000円

計 424,700円

◎青少年育成推進のための協力援助

青少年育成基金の運用事業の一環として、奨励のための青少年の表彰に関し、本年度コンクールの幼年、少年、青年の部上位入賞者に副賞の奨励金（優勝30,000円、二位20,000円、三位10,000円）の授与を行った。

平成24年度全国吟詠コンクール決勝大会奨励金 180,000円

平成24年度全国剣詩舞コンクール決勝大会奨励金 360,000円

計 540,000円

ニ. 国民文化祭・全国吟詠剣詩舞道祭に対する協力援助

長年にわたり財団恒例の事業として続いて来た、国民文化祭の主催事業「全国吟詠剣詩舞道祭」の第27回国民文化祭・とくしま2012の開催はお休みとなったが、11月11日（日）、日本武道館で開催した財団創

立45周年記念「第44回全国吟剣詩舞道大会」を国民文化祭協賛事業として開催すると共に、12月9日（日）、徳島県名西郡石井町の石井町中央公民館で開催された財団公認徳島県吟剣詩舞道総連盟主催の第27回国民文化祭・とくしま2012応援事業「徳島県吟詠剣詩舞道祭」を後援名義を与えるなど協力した。

③ 研究会開催事業

吟剣詩舞に関する専門委員会の開催を行った。

第25回吟詠専門委員会（兼、45周年武道館大会準備委員会）

日時 平成24年6月2日（土）15:30～17:00

場所 笹川記念会館 4階第5会議室

出席者 吟詠専門委員10名及び大会準備委員12名

議題 「財団創立45周年記念武道館大会」特別企画構成番組に関する件ほか

第26回吟詠専門委員会（兼、45周年武道館大会準備委員会）

日時 平成24年8月10日（金）14:00～15:50

場所 成田東武ホテルエアポート2階会議室「竹の間」

出席者 吟詠専門委員10名及び大会準備委員12名

議題 「財団創立45周年記念武道館大会」特別企画構成番組に関する件ほか

第37回剣詩舞専門委員会

日時 平成25年2月8日（金）17:30～18:30

場所 成田東武ホテルエアポート2階会議室「竹の間」

出席者 専門委員11名ほか、オブザーバー3名

議題 平成24年度剣詩舞大学の開催に関する件
平成26年度剣詩舞コンクール指定吟題候補に関する件
平成25年度全国名流吟剣詩舞道大会（平成25年5月5日〔日・こどもの日〕於、宇都宮市文化会館・大ホール）の開催に関する件ほか

④ 功労者表彰事業

イ. 財団創立45周年功労者表彰

平成24年11月11日（日）日本武道館で開催した財団創立45周年記念・国民文化祭協賛事業・高松宮妃癌研究基金奉賛「第44回全国吟剣

詩舞道大会」の記念式典の席上、現行財団本部役員並びに過去5年間に物故された財団本部役員を吟剣詩舞功労者として表彰した。

表彰 本部役員……………1,295名 物故役員……………89名

ロ. 平成24年度吟剣詩舞大賞受賞者の選考並びに表彰を行った。

平成24年度(第26回)吟剣詩舞大賞選考委員会を開催(9月1日)して、本年度の吟剣詩舞大賞「吟剣詩舞功労賞」に次の6氏を選考した。また、受賞者を第44回全国吟剣詩舞道大会の式典において表彰した。

吟剣詩舞功労賞	小野光翠扇	剣詩舞家・大分県
〃	矢澤風慶	吟詠家・神奈川県
〃	井川賀替	吟詠家・兵庫県
〃	山下岳隼	吟詠家・石川県
〃	二神清竜	吟詠家・愛媛県
〃	古賀桜州	吟詠家・佐賀県

(2) 普及事業

① 海外普及事業

吟剣詩舞の海外普及状況調査並びに親善文化交流会等への協賛を行うことを計画したが、普及事業会計の資金事情の逼迫等を考慮し、構えた海外普及状況調査、親善文化交流会等への協賛を控えると共に海外公認連盟への助成は行わなかった。

② 広報活動事業

吟剣詩舞の周知宣伝のための広報活動を行なった。

イ. インターネットの「吟剣詩舞ホームページ」の運用維持を行った。

ロ. 広報に関する協力団体への協力を行った。

公益財団法人伝統文化活性化国民協会事業への協賛並びにボートレース関係団体連絡組織である「水心会」事業への協同を行った。

ハ. 月刊「吟剣詩舞」の発行を通して吟剣詩舞の広報活動を行なった。

ニ. 吟剣詩舞の広報のためのパンフレット及びポスターの作成については、吟詠専門委員会において編纂を行った幼少年向けテキスト『はじめての吟詠』の頒布促進を図るため、入手希望者に引き続き、公認総連盟を通じて頒布を行った。

ホ. 「通信衛星による吟剣詩舞の普及振興」事業計画書

(目的)

近年、吟詠、剣舞及び詩舞の普及については、興味、関心を持ちながら時間的余裕のない潜在的ファンに対し、身近なメディア（テレビ）で啓蒙を図ることが近道であり、また、既在会員の技術の向上を図るためには、全国大会等の中継録画を放映することによる優れた演舞を紹介することが不可欠である。よって、各家庭のテレビを通じて、吟詠、剣舞及び詩舞の魅力を紹介し、吟剣詩舞の普及啓蒙を図るとともに、会員の技術の向上を図ることを目的とした。

(目標)

a. 一般への普及啓蒙

吟剣詩舞に興味、関心を持ちながら時間的余裕のない潜在的ファンに対し、身近なメディア（テレビ）で吟詠、剣詩舞を紹介し、吟剣詩舞の普及啓蒙を図った。

b. 会員の技術の向上

吟剣詩舞の全国大会やコンクールの模様を紹介することにより、全国レベルの吟剣詩舞を紹介し、大会やコンクールに直接参加することができない会員の技術の向上に役立てることができた。

(事業内容)

通信衛星の回線を利用して吟剣詩舞の各種番組を全国に配信したもので、放映方法及び番組内容は、次のとおりである。

a. 衛星回線番組の放映方法

吟剣詩舞の30分番組(50本)を制作し、毎日、午前7時00分から7時30分までの時間帯に日本レジャーチャンネルの衛星回線(スカパー380ch)より放映した。

b. 衛星回線番組の放映内容

各種大会、コンクール等の中継録画のほか、文化教養を含む講座番組、催物等の報道番組を核とし、過去の全国大会の企画構成吟ダイジェストや決勝コンクール入賞者ダイジェストなどを鑑賞する番組とした。

(事業費総額)

事業費総額 4,000,000円(全額自己負担)

(3) 振興事業

① 発表会開催事業

吟剣詩舞普及のための発表会の開催を行なった。

イ. 財団創立45周年記念、第27回国民文化祭・とくしま2012協賛事業・高松宮妃癌研究基金奉賛「第44回全国吟剣詩舞道大会」の開催

日 時 11月11日(日) 9:00~16:30

場 所 日本武道館〔東京都千代田区〕

来 場 者 7,236名

参加団体数 1,292団体 総出演者 4,227名

後 援 文化庁・日本武道館・NHK

公益財団法人高松宮妃癌研究基金への奉賛金1,800,000円

ロ. 秋篠宮妃総裁・恩賜財団母子愛育会奉賛「平成24年度全国名流吟剣詩舞道大会」の開催

日 時 5月5日(土・こどもの日) 9:50~16:40

場 所 i i c h i k o グランシアタ [大分市]
 来 場 者 1, 8 9 2 名 総出演者 5 7 4 名
 後 援 文化庁・大分県・大分市・NHK・NHK大分放送局・
 大分合同新聞社・OBS大分放送
 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会への奉賛金 2, 0 0 0, 0 0 0 円

② 吟詠教本発行事業

吟詠統一教本（既刊図書）及び幼少年向けテキスト『はじめての吟詠』（新刊図書）の頒布を行なった。（ ）内は前年度実績

・吟剣詩舞道漢詩集（絶句編）解説書	3 4 3 部	（ 2 5 0 部）
・吟剣詩舞道漢詩集（律詩・古詩編）解説書	1 0 9 部	（ 1 5 0 部）
・吟剣詩舞道漢詩集（続絶句編）解説書	2 3 9 部	（ 2 2 6 部）
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集（絶句編）	8 8 6 部	（ 7 4 8 部）
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集（律詩・古詩編）	3 3 3 部	（ 3 8 5 部）
・吟剣詩舞道アクセント付漢詩集（続絶句編）	6 9 7 部	（ 7 7 3 部）
・幼少年向けテキスト『はじめての吟詠』	2, 9 2 6 部	（ 8, 3 8 0 部）

③ 会報発行事業

吟剣詩舞に関する広報並びに教養誌としての月刊「吟剣詩舞」の発行を行なった。

平成 2 5 年 3 月 3 1 日現在の有料発行部数は、9, 5 4 8 部（昨年度末 1 0, 0 7 8 部）である。

④ 教材頒布事業

教材としてのテープ及びCDの製作頒布を行なった。（ ）内は前年実績

・平成 2 5 年度吟剣詩舞道吟詠集テープ	1, 6 3 8 本	（ 2, 0 2 2 本）
・平成 2 5 年度吟剣詩舞道吟詠集CD	5, 0 9 4 本	（ 4, 3 1 2 本）

教材としてのテープ及びCDの製作監修並びに財団指定を行なった。

・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	1 0 6 本	（ 1 1 5 本）
・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	1, 0 6 8 本	（ 9 5 7 本）
・続・吟剣詩舞道伴奏集テープの指定数	6 9 本	（ 5 2 本）
・続・吟剣詩舞道伴奏集CDの指定数	8 1 3 本	（ 7 9 8 本）

(4) 助成事業「吟剣詩舞普及振興のためのコンクールの開催」

2012年度日本財団助成事業「吟剣詩舞普及振興のためのコンクールの開催」を実施した。

事業費総額 16,193,819円

助成金額 11,120,000円

事業の実施内容

イ. 名称及び開催時期

a 平成24年度全国吟詠コンクール 平成24年4月～10月

b 平成24年度全国剣詩舞コンクール 平成24年4月～10月

c 第41回全国少壮吟詠家審査コンクール平成24年10月～翌3月

ロ. 内 容

年齢により全国吟詠コンクール及び全国剣詩舞コンクールは6部門に分けて実施し、優れた吟剣詩舞道者の発掘と表彰を行うとともに全国少壮コンクールは35歳から55歳までの吟詠指導者の研鑽の場とし、すぐれた吟詠家を選出する公の機関として開催することができた。

ハ. 各コンクール第二次予選及び全国大会開催地

開催地	吟詠コンクール	剣詩舞コンクール	少壮コンクール
北海道	札幌市	札幌市	札幌市
東日本	東京都	東京都	東京都
中部	刈谷市	刈谷市	浜松市
近畿	高槻市	尼崎市	高槻市
中国	広島市	山口市	推 薦
四国	高松市	愛媛県砥部町	高知市
九州	福岡市	大村市	大村市
全国	東京都	東京都	東京都

ニ. 参加者数

a 平成24年度全国吟詠コンクール 約 14,000人

b 平成24年度全国剣詩舞コンクール 約 6,500人

c 第41回全国少壮吟詠家審査コンクール 約 5,500人

目標達成状況

各コンクールそれぞれボランティアによる大会役員に支えられ県単位の第一次予選、全国7地区単位の第二次予選及び全国大会として決勝、決選

大会を行ったもので、近年の少子化等に伴い会員の減少が特に青少年層に顕著にあらわれているが、コンクールを通じて幼少年の育成に力を入れ、確実に出場者を確保するとともに、これを更に推し進めることができた。また、少壮コンクールにおいては、少壮吟士としての称号を付与するための厳しい審査基準及び年齢制限を設け吟詠指導者の公の選出機関としての役目を引き続き果たすことができた。

(5) 助成事業「吟剣詩舞普及振興のための講習会の開催」

2012年度日本財団助成事業「吟剣詩舞普及振興のための講習会の開催」を実施した。

事業費総額 11,600,672円

助成金額 7,880,000円

事業の実施内容

夏季吟道大学は全国から選ばれた吟詠指導者を、少壮吟士夏季吟詠特別研修会は少壮吟士を、剣詩舞道大学は全国から選ばれた剣詩舞指導者を対象にした講習会で、吟剣詩舞の幹部指導者並びに少壮吟士の養成機関とすることができた。

名称及び開催地等

名 称	夏季吟道大学	少壮吟士研修会	剣詩舞道大学
対 象 者	吟詠幹部指導者	少壮吟士及び候補	剣詩舞幹部指導者
受講人数	138名	62名	137名
開 催 日	7月23日(土)～24日(日)	8月20日(土)～21日(日)	翌年2月9日(土)～10日(日)
場 所	成田東武ホテルエアポート	成田東武ホテルエアポート	成田東武ホテルエアポート
目 的	吟詠指導者の養成	少壮吟士の育成	剣詩舞指導者養成

目標達成状況

全国から選ばれた吟詠の指導者を受講対象者とした夏季吟道大学、少壮吟士称号保持者及び同候補者の研修を目的とした少壮吟士研修会及び剣詩舞の指導者を受講対象者とした剣詩舞道大学を開催し、吟剣詩舞の現状の把握と一層の芸術的向上を図るとともに、普及振興のための研究討議を行い、全国的レベルでの向上と吟詠の芸術的向上を担う少壮吟士の芸術的レベルアップを図ることができた。